三島由紀夫 略年譜

―演劇上演を中心とした戯曲リスト

戦後の日本文学を代表する作家の一人。代表作に『仮面の告白』『潮騒』『金閣寺』、『豊饒の海』四部作など。人工性、構築性にあふれる唯美的な作風が特徴。戯曲も数多く執筆、翻訳を介し欧米でも紹介され、高い評価を得ている。

大正

十四（一九二五）

一月十四日、東京市四谷区（現新宿区）に生まれる。本名：平岡公威。

六（一九三一）

六歳
学習院初等科入学、この頃から詩歌・俳句に興味を持ち始める。

十二（一九三七）

十二歳
歌舞伎好きの祖母に連れられ、最初に観た歌舞伎が『忠臣蔵』、次いで『勧進帳』。

十三（一九三八）

十三歳
ワイルド、コクトーの詩を読み、詩作に熱中する。

十四（一九三九）

十四歳
『**東の博士たち**』一幕を学習院『輔仁会雑誌』に発表。

十六（一九四一）

十六歳
「三島由紀夫」のペンネームを初めて使い、『花ざかりの森』を発表。

十七（一九四二）

十七歳
歌舞伎鑑賞の詳細な劇評と舞台スケッチを書き始める。

二十二（一九四七）

二十二歳
東京帝国大学法学部卒業、大蔵省銀行局に勤務（翌年退職、創作活動に専念する）。

二十三（一九四八）

二十三歳
処女戯曲『**火宅**』〈※翌年俳優座創作劇研究会初演（演出：青山杉作）〉

二十四（一九四九）

二十四歳
初の書き下ろし長編『仮面の告白』刊行、作家的地位を確立。
『**聖女**』〈二十七年に創芸座初演〉、
『**燈台**』〈大阪放送劇団・関西実験劇場初演（演出：小山賢市）、翌年三島の初演出で俳優座創作劇研究会上演〉

二十五（一九五〇）

二十五歳
『**邯鄲**―**近代能楽集ノ内**』〈文学座アトリエで初演（演出：芥川比呂志）〉

二十六（一九五一）

二十六歳
『**綾の鼓**―**近代能楽集ノ内**』〈翌年俳優座勉強会で初演（演出：島田安行）〉

二十七（一九五二）

二十七歳
『**卒塔婆小町**―**近代能楽集ノ内**』〈文学座アトリエで初演（演出：長岡輝子）〉
『**只ほど高いものはない**』〈三十年に文学座初演（演出：長岡輝子）〉

二十八（一九五三）

二十八歳
『**夜の向日葵**』〈文学座初演（演出：長岡輝子）〉
芥川龍之介原作『**地獄変**』**脚色**〈中村吉右衛門劇団初演（演出：久保田万太郎）〉

二十九（一九五四）

二十九歳
『**葵上**―**近代能楽集ノ内**』〈三十年に文学座初演（演出：戌井市郎）〉
音楽劇『**溶けた天女**』、『**鰯売恋曳網**』〈中村吉衛門劇団初演（演出：久保田万太郎）〉
『**若人よ蘇れ**』〈俳優座初演（演出：千田是也）〉

三十（一九五五）

三十歳
『**班女**―**近代能楽集ノ内**』〈三十二年に同人会初演（演出：田中千禾夫）〉
『**熊野**』〈菁会により歌舞伎座で初演（演出：三島、振付：藤間勘十郎）〉
『**恋を開く酒の鍵**』**第二～四景**〈日劇ミュージックホール（演出：丸尾長顕）〉
『**船の挨拶**』〈文学座アトリエで初演（演出：三島）〉
『**三原色・附演出覚書**』、『**白蟻の巣**』〈青年座初演（演出：菅原卓・阿部広次）〉※第二回岸田演劇賞
ラシイヌ作『**フェードル**』による『**芙蓉露大内実記**』〈吉右衛門・猿之助劇団初演（演出：三島）〉

三十一（一九五六）

三十一歳
『**鹿鳴館**』〈文学座創立20周年記念公演で初演（演出：松浦竹夫）〉
コクトオの映画『**オルフェ**』**より舞踊劇**『**オルフェ**』〈喜多村峰端新作舞踊発表会で初演（演出：三島）〉

三十二（一九五七）

三十二歳
ラシイヌ原作『**ブリタニキュス**』**修辞**〈文学座初演（演出：矢代静一）〉※第九回毎日演劇賞
『**大障碍**』〈文学座アトリエで初演（演出：松浦竹夫）〉
『**金閣寺**』〈新派公演（脚色・演出：村山知義）〉
『**朝の躑躅**』〈新派・菁会合同公演で初演（演出：長岡輝子）〉
『**近代能楽集**』ドナルド・キーン訳でアメリカ・クノック社刊行
のちフランス・イギリス・スペイン・スウェーデン・デンマーク・ドイツ・アルゼンチンで翻訳出版される。

昭和

新国立劇場での三島作品の上演

『**サド侯爵夫人**』〈2003年（演出：鐘下辰男）〉

『**近代能楽集**』『**綾の鼓**』『**弱法師**』〈2008年（『綾の鼓』演出：前田司郎・『弱法師』演出：深津篤史）〉

三十三（一九五八）

三十三歳

六月一日、川端康成の晩酌により、画家杉山寧の長女瑤子と結婚。

『**道成寺**―**近代能楽集ノ内**』〈五十四年「三島由紀夫近代能楽集」上演委員会により初演（演出：芥川比呂志）〉

『**薔薇と海賊**』〈文学座初演（演出：松浦竹夫）〉※週間読売新劇賞

『**むすめごのみ帯取池**』〈吉右衛門・猿之助劇団で初演（演出：久保田万太郎）〉

西独で『**近代能楽集**』〈卒塔婆小町・綾の鼓・邯鄲・葵ノ上）上演、のちアメリカ・スウェーデン・フランス・オランダ・オーストリア・ポーランド・キューバで翻訳上演される。

三十四（一九五九）

三十四歳

『**愛の不安**』〈文学座勉強会で初演（演出：水田晴康）〉

『**熊野**―**近代能楽集ノ内**』、『**不道徳教育講座**』〈松竹新喜劇で公演（脚色・演出：館直志）〉。

写真集『六世中村歌右衛門』を編纂、同書に『六世中村歌右衛門序説』を発表。

『**女は占領されない**』〈越路吹雪主演、東宝現代劇で初演（演出：長岡輝子）〉

『**桜姫東文章**』監修〈歌舞伎座で上演（演出：久保田万太郎）〉

九月、テネシー・ウィリアムズと会い、語る。

三十五（一九六〇）

三十五歳

『**熱帯樹**』〈文学座初演（演出：松浦竹夫）〉、

ワイルド作、日夏耿之助訳『**サロメ**』〈文学座初演（演出：三島）〉。

鈴木力衛・長岡輝子・鳴海四郎・安堂信也とともに文学座の企画参与となる。

『**弱法師**―**近代能楽集ノ内**』〈四十年、劇団ＮＬＴ初演（演出：寺崎嘉浩）〉

三十六（一九六一）

三十六歳

『**橋づくし**』〈新派公演（脚色・演出：榎本滋民）〉、

『**十日の菊**』〈文学座創立二十五周年記念公演で初演（演出：松浦竹夫）〉※第十三回読売文学賞（戯曲部門）

三十七（一九六二）

三十七歳

『**源氏供養**―**近代能楽集ノ内**』、**江戸川乱歩原作**『**黒蜥蜴**』〈吉田史子プロデュースで初演（演出：松浦竹夫、主演：水谷八重子・芥川比呂志）〉

『**鹿鳴館**』〈新派で初めて上演（演出：戌井市郎）〉

三十八（一九六三）

三十八歳

芥川比呂志・仲谷昇・岸田今日子ら二十九名が文学座を去り、新たに現代演劇協会・劇団雲を結成。三島は文学座に残り、理事となる。

サンドゥ原作『**トスカ**』**潤作**〈文学座で公演（演出：戌井市郎）〉

文学座のために書いた『喜びの琴』が座内の反対で上演中止となったため『文学座諸君への〝公開状〟―芸術には針がある』（朝日新聞）を発表。同座を脱退。

矢代静一・松浦竹夫・賀原夏子・中村伸郎ら十四名がこれに続く。

日生劇場のスタッフとなる。

三十九（一九六四）

三十九歳

劇団ＮＬＴ結成、岩田豊雄とともに顧問になる。

『**喜びの琴**』〈日生劇場で初演（演出：浅利慶太）〉

『**箱根細工**』〈藤山寛美らにより初演（脚色・演出：館直志）〉

『**恋の帆影**』〈水谷八重子らにより日生劇場初演（演出：浅利慶太）〉、

『絹と明察』※第六回毎日芸術賞

四十（一九六五）

四十歳

『**弱法師**』『**斑女**』〈アートシアター新宿文化において劇団ＮＬＴ初演（『弱法師』演出：水田晴康・『斑女』演出：寺崎嘉浩）〉

『**サド侯爵夫人**』〈劇団ＮＬＴ初演（演出：松浦竹夫）〉※第二十回芸術祭賞演劇部門

四十一（一九六六）

四十一歳

ユーゴー原作『**リュイ・ブラス**』**潤色**〈劇団ＮＬＴ初演（演出：松浦竹夫）〉

『**アラビアンナイト**』〈北大路欣也・水谷良重らで日生劇場初演（演出：松浦竹夫）〉

四十二（一九六七）

四十二歳

国立劇場の理事となる。

『**三原色**』〈アンダーグラウンド蠍座で上演（演出：堂本正樹）〉

『**朱雀家の滅亡**』〈劇団ＮＬＴ初演（演出：松浦竹夫）〉

『**サド侯爵夫人**』ドナルド・キーン訳でアメリカ・グローブプレス刊行、のち英・仏で翻訳出版。

四十三（一九六八）

四十三歳

劇団ＮＬＴを退団、松浦竹夫・中村伸郎らと劇団浪曼劇場を創立、幹事となる。

『**聖女**』〈アンダーグラウンド蠍座公演（演出：堂本正樹）〉

バレエ『**ミランダ**』〈明治百年記念芸術祭バレエ特別公演で公演（作曲：戸田邦雄、演出：橘秋子）〉

コクトオ原作『**双頭の鷲**』**監修**〈天の会第一回公演で初演（演出：松浦竹夫）〉

『**わが友ヒットラー**』〈翌年、劇団浪曼劇場旗揚げ公演で初演（演出：松浦竹夫）〉

四十四（一九六九）

四十四歳

『**癩王のテラス**』〈劇団雲・東宝提携で初演（演出：松浦竹夫）〉

『**春の雪**』〈東宝現代劇特別公演（演出・脚色：菊田一夫）〉

サルドゥ作『**皇女フェドラ**』松浦竹夫と共同監修〈劇団浪曼劇場公演（演出：松浦竹夫）〉

歌舞伎『**椿説弓張月**』〈国立劇場開場三周年記念公演で初演（演出：三島）〉

四十五（一九七〇）

四十五歳

人形浄瑠璃『**椿説弓張月・上の巻**』完成

十一月二十五日、陸上自衛隊市ヶ谷駐屯地東部方面総監室で自決。

四十六（一九七一）

『**サロメ**』〈劇団浪曼劇場公演（演出：三島）〉

文楽『**椿説弓張月**』〈国立劇場開場五周年記念公演で初演（脚色・演出：山田庄一）〉

五十一（一九七六）

オペラ『**金閣寺**』〈ドイツで初演（作曲：黛敏郎、演出：グスタフ・ゼルナー、脚本：クラウス・ヘンネベルク）〉

二十二（二〇一〇）

オペラ『**鹿鳴館**』〈新国立劇場で世界初演（作曲：池辺晋一郎、上演台本・演出：鵜山仁）〉

『**朱雀家の滅亡**』〈２０１１年（演出：宮田慶子）〉

『**白蟻の巣**』〈２０１７年（演出：谷賢一）〉

撮影：谷古宇正彦

オペラ『**鹿鳴館**』〈２０１０年〉

撮影：三枝近志